

平時活用/有事活用の2つのメリット

●メリット1

普段から利用しておくことで、まさかの有事の際にそれが活用できる可能性がグンと高くなる

●メリット2

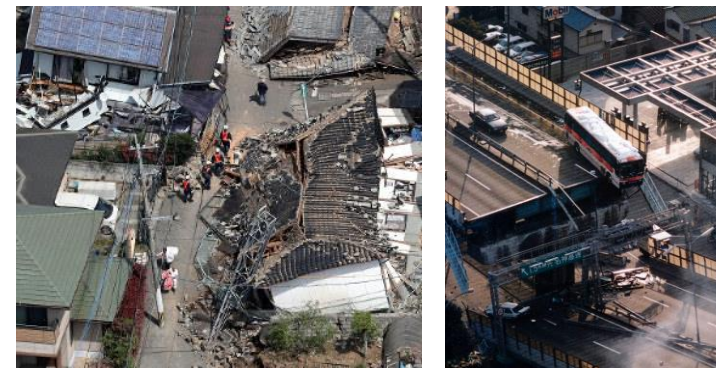
限られた財源等の資源を投入した施設や設備を、平時においても活用することが出来る



限られた財源を使って様々な行政や事業を行っている政府や民間事業者にとって、この「平時活用/有事活用」のコンセプトは、極めて効果的である。個人で出来る対策として、テーブル型・ベッド型・押入れ型の小型シェルターは平時活用ができ費用対効果が高い

国土強靱化は一番目の内需拡大効果と三番目の経済被害削減効果だけでも、現状においては日本の成長戦略として重要な役割を担っているわけではあります。これらに加えてさらに、二番目の効果である「生産性向上効果」が大きい場合には、さらに大きな経済効果が期待できることとなります。そして、国土強靱化の取り組みでは、この「生産性向上効果」の存在もまた、しっかりと見据えながら進めようとしています。なぜなら、国土強靱化の取り組みは、「平時活用/有事活用」という基本方針を明確に捉えたものだからです。この方針は、要するに、地震等のリスクが発生したときだけのために、平時において全く使わないような「防災施設」等を作るよりも、平時に可能な限り活用できるような防災施設や設備をつくり、それをまさかの有事にも利用することを重視しよう、というものです。つまり、有事のためにモノをつくる場合でも、可能な限り平時にそれを活用するような工夫を重視しようという考え方で、

完全な地震予兆はできない！



阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震の画像

【正確な地震予兆は出来ない】
阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、全て想定外のエリアで大きな地震が発生しました。現在では科学技術が発達し、地殻の動きをGPSで観測したり、海底のプレートの歪みを観測していますが、「いつどこで？震度は？」といったピンポイントで正確な予兆は不可能です。※震度は地上の揺れの大きさの単位で、マグニチュードは地震のエネルギーの単位となります。
震源が地中深ければ、マグニチュードが大きくても震度は小さく、逆にマグニチュードが小さくても、震源が浅ければ、震度7クラスの地震が起きることがあります。地震とは自然災害ですので、歪みが観測できても、地中のどの深さが震源になるかは予測出来ません。だからこそ、「対策をしておけばよかった」と後悔しないように、普段からの備えが重要になってきます。

防災新聞

発行者

関西ボラコン株式会社




兵庫県丹波市
山南町草部448-1
電話 06-6467-8333
ホームページ
bousai-ansin.com

f 「いいね！」
お願いします



住宅の耐震化が進まない理由

耐震化が進まない3つの要因

| 意識の低さ | お金の問題 | 住宅性能表示制度 |
|---|--|---|
| 「自分が生きているうちは大震災は来ない」 「住宅が倒壊する前に家から逃げられる」 「大地震が来れば、いずれにせよ助からない」 などの間違った認識。 | 耐震診断などへの一定程度の公的助成はあるものの、診断から実際の耐震改修をするとすれば、結果として戸建住宅では200万円程度はコストがかかってしまう。 しかも、旧耐震住宅は高齢者が住んでいる比率が高く、現状ではローンを組むことが出来ない方も多いのが実情。 | 現在、住宅性能表示制度はあるものの、普及が十分でなく、中古住宅の売買や賃貸の際に一律に経年劣化で評価され、性能が価格などへ必ずしも正確に反映する仕組みになっていません。 |
| ↓ | ↓ | ↓ |
| 「地震による深刻な被害は耐震化やシェルター等によって解決しうる」という正しい知識をしっかりと理解する  | いつ来るかわからない地震のために耐震改修するよりは、孫のためにお金をとっておきたいと考える方が多いのも事実  | 売主や買主ないしは貸主が耐震改修を実行するインセンティブがしっかりと働かないことがあります。  |

首都直下地震で都心の食料備蓄6割不足 帰宅困難32万人、トイレ14時間待ち…

首都直下地震の発生時に大量の帰宅困難者が出ると予想される東京都心の丸の内・大手町地区で、食料や水などの備蓄量が6割不足していることが防衛大などの調査で分かりました。買い物などで訪れた人がトイレを利用する際の待ち時間は最大14時間超の見込みで、対策の遅れが明らかになりました。
東京駅前に位置する丸の内・大手町地区（東京都千代田区）は日本屈指のビジネス街。昼間の人口18万人の大半は通勤者で、さらに商用や買い物、観光などで1日に14万人の訪問者が滞在すると試算。首都直下地震が起きると計32万人の帰宅困難者であふれかえると推定しました。千代田区が実施したアンケートに基づく企業の備蓄と行政の備蓄を、訪問者を含む全ての帰宅困難者に均等に配分すると想定。国が確保しよう求めている3日分の備蓄量と比較した結果、不足率は食料63.6%、水61.2%で、いずれも約1日分しかありませんでした。
訪問者のトイレ事情が劣悪なことも明らかになり、今後の課題となりました。携帯トイレは62.7%が不足する上、利用者は地区内の高層ビルなどに殺到。全55棟で1階のトイレを開放した場合、1棟当たりの利用者は男性1700人、女性900人に達し、最大待ち時間は男性14時間21分、女性5時間12分になるといいます。
企業や行政での備蓄だけでは足りなく、ひとりひとりが自分で準備しておくのが重要です。また、情報を知ることができなければ、避難の確立を下げることができません。



体験型防災アトラクションの常設公演がスタートしました！

5/27（土）に北淡震災記念公園で第1回目となる常設型の防災アトラクションが開催されました。当日は、岡山県の中学生、およそ160人が参加しゲームを通して防災を学びました。初めての試みということもあり、TV局や新聞記者の方たちも取材にいられました。※団体予約のみ随時受け付け致します。



日本で1番地震が少ない都道府県はどこだ！？


日本は地震大国と言われていますが、地震発生回数が少ない地域はあるのでしょうか？そこで、1923年～2016年9月11日時点での震度5弱以上の地震の累計を気象庁の観測データより抜粋し、都道府県別にまとめました。

| | | | | | | | | | |
|-----|---|------|---|------|----|------|----|-----|----|
| 富山県 | 2 | 高知県 | 4 | 山口県 | 7 | 埼玉県 | 15 | 熊本県 | 35 |
| 岐阜県 | 2 | 長崎県 | 4 | 山形県 | 8 | 大分県 | 15 | 新潟県 | 36 |
| 大阪府 | 2 | 福井県 | 5 | 群馬県 | 8 | 千葉県 | 19 | 北海道 | 41 |
| 愛知県 | 3 | 京都府 | 5 | 石川県 | 8 | 鹿児島県 | 19 | 宮城県 | 44 |
| 滋賀県 | 3 | 徳島県 | 5 | 秋田県 | 10 | 山梨県 | 20 | 茨城県 | 46 |
| 島根県 | 3 | 愛媛県 | 6 | 宮崎県 | 11 | 青森県 | 22 | 福島県 | 55 |
| 岡山県 | 3 | 三重県 | 7 | 神奈川県 | 12 | 栃木県 | 22 | 東京都 | 72 |
| 香川県 | 3 | 奈良県 | 7 | 広島県 | 13 | 長野県 | 27 | | |
| 福岡県 | 3 | 和歌山県 | 7 | 沖縄県 | 13 | 岩手県 | 30 | | |
| 佐賀県 | 3 | 鳥取県 | 7 | 兵庫県 | 14 | 静岡県 | 30 | | |


ここで、注意したいことがいくつかあります。
 過去93年間の観測データで、大きな地震が発生していないからと言って、これから大きな地震が発生しないわけではありません。
 むしろ、今まで発生していなかった分、プレートのひずみが溜まっていて、かつてない大きな地震が発生する可能性があるかも知れません。

地球の年齢は46億歳です。
 人間がたった100年程度観測しただけでは、地震の少ない地域を特定することは困難です。
 地球は常に少しずつ変化していて、ある程度推測することはできても、地震に関して予測・予報をすることはできません。
 いつ起きるかわからない大きな地震に対して、出来る限りの備えをして防災について関心を深めることが大切です。

防災新聞が届いたら構-kamae-に潜る練習を！！



- ①地震警報が鳴る
- ②テーブルに近い人から下に潜る
(先に潜った人は他の人をテーブルに誘導する)
- ③揺れが収まるまでテーブルの下で待機する
- ④揺れが収まれば、避難すべきかの状況判断



- ①地震警報が鳴る
- ②襖を開ける
- ③押し入れに入る（前向きか後ろ向きかは各自入りやすい方）
- ④飛来物から身を守る為、自分の体が隠れるまで襖を閉める
※完全に閉めてしまうと閉じ込められてしまう恐れあり
- ⑤揺れが収まるまで待機
- ⑥避難すべきかの状況判断

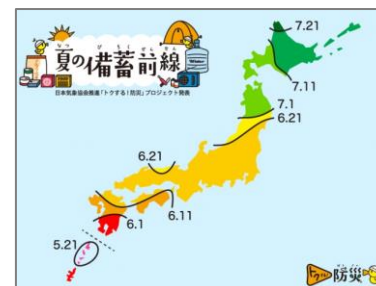


- ①地震警報が鳴る
- ②体を回転させ、ベッドから降りる
- ③中央の脚を掴み、体を引き寄せる
- ④揺れが収まるまで待機
- ⑤避難すべきかの状況判断

災害時の豆知識～vol.38～

「トクする！防災」夏の備蓄前線

日本気象協会が推進する「トクする！防災」プロジェクトは「夏の備蓄前線」を6月1日(木)に発表しました。
 「夏の備蓄前線」は「トクする！防災」プロジェクトの公式サイト (<https://tokusuru-bosai.jp/stock/stock07.html>) で公開されています。



備蓄のコツやポイントだけでなく、避難方法等も掲載されています。

※集中豪雨や台風等で雨がよく降るシーズンになりました。
 一般的に『備蓄』と聞くと、地震対策のように感じる方も多かもしれませんが、しかし、予知が難しい地震に対し、ある程度予測が可能であり、また頻度が多い土砂災害や河川の氾濫などの対策にも備蓄は非常に有効です。

防災新聞

発行者

関西ボロン株式会社

兵庫県丹波市
 山南町草部448-1
 電話 06-6467-8333
 ホームページ
bousai-ansin.com

「いいね！」
 お願いします

